

令和元年度第2回 奈良県学校・地域パートナーシップ事業 地域コーディネーター連絡会実施報告書

- 1 日時 令和元年9月25日(水) 10:00~12:00
- 2 会場 県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域コーディネーター 計118名
- 4 内容 10:00~10:05 開会
10:05~11:10 パネルディスカッション
「4つのプロジェクト進行中!~地域で社会力を高めよう!~」
天理市樺本小学校 地域コーディネーター 森田 祐司・杏井 純子
奈良県学校コミュニティ・コーディネーター 有田 佐
11:15~11:55 ワークショップ
11:55~12:00 閉会

5 パネルディスカッション概要

- ・天理市立樺本(いちのもと)小学校地域コーディネーターの森田祐司さん、杏井純子さんをパネリストとして迎え、多様、多彩な取組を映像で紹介、取組に関わるスタッフの思い、子どもたちの様子などを語っていただいた。参加者は、これらのプロジェクトがどういういきさつでスタートしているかを聞くことができた。
- ・樺本こども夢応援プロジェクトは、「みんなのとしょかん」・「町力(まちか)塾」・「夢応援プロジェクト」・「夢みまもりプロジェクト」の4つを実施している。それぞれの取組を通して、人と人が優しさでつながる、優しさが広がるような内容を聞くことができた。
- ・学校は常にメリット・デメリット双方を考え、慎重に事を運ぶ風土があるため、地域がやってみたいことは、すぐには受け入れてもらえない事が多い。このような状況を打破したいという思いで、「地域がやることは、地域が責任をもつ」ということを大事にしながら、事業を行っていくことで、少しずつ学校と地域との信頼が深まっていった。
- ・樺小プロジェクト会議を月1回行っている。その中では、それぞれの事業を、必ず小学校の教職員と意見交換しながら進め、協働して取組を進めている。そうすることで、地域と学校が協働した取組として進められ、子どもたちはいっそう素直になり、普段の学校生活も落ち着きを見せていく等の変容が感じられ、お互いの信頼が深まっていった。
- ・樺本小学校の地域と共にある学校づくりの進化や取組の充実の裏には、いくつかの「しかけ(森田さんは「ヒミツ」と言う)」がある。それは、「学校と地域の協働」、「地域が責任をもつ」、「優しさ」そして「感謝と信頼」である。
- ・将来的に学校は、子どもから高齢者までいっしょに学ぶ場として、学校自体が地域のプラットフォームになれば良いと思う。校長先生は、「学校は、地域の子ども(宝物)を預かっている。地域にとって、学校は財産である。地域の人たちが、学校を活用しながら、子どもから高齢者まで豊かな生活ができる地域づくりを目指したい」とおっしゃっている。これからも、この言葉を大切に次世代にも活動をつなげていきたい。



6 ワークショップ

- ・パネルディスカッションを受けて、参加者それぞれの日々の活動で感じている課題を付箋に記入し、その解決方法についてグループで熟議を行った。
- ・ファシリテーターから熟議の3つのポイント「よく聴く」、「短く話す」、「しっかり書き留める」説明があった。
- ・熟議では、それぞれが出した課題について、「誰にもできそうなこと」という視点でアドバイスやヒントを考え、情報共有をすることができた。



7 感想

- ・各地域の様々な話が聞けて参考になった。
- ・ワークショップを通じて意見交換が出来てよかった。付箋に書きだして貼り付けて画用紙を埋めていくのは楽しい。
- ・システム構築のヒントを与えてもらった。協議会とボランティアが各地域で行っている活動を具体的に知ることが出来た。
- ・人材をいかに確保していくかが課題である。
- ・各地域の方の活動について、積極的な意見交換ができた。ワークショップの進め方が良かったと思う。
- ・学校の現状を十分に踏まえたリーダーシップをもつ方でない地域の方に要請要望が浸透しづらい。

